DENSO

# 10月度 例会 個人 山 行 報 告 書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 報告者 | 吉川浩行 | 参 加 メンバー | CL: 吉川(装備・記録)<br>SL:金子（指導）<br>藤田<br>長島(食糧・会計) |
| 報告日 | 11／8 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山 域 | 穂高連峰 | 山行日 | 06 年 10 月 20 日（金）～ 22 日(日) |
| 山 名 | 奥穂高、前穂高岳 | | |
| 山行目的 | 紅葉山行 | | |

配布先
集会:12
山行: 1
ﾘｰﾀﾞｰ
原 紙：集会担当者

ルート図（地図を見て正確に）

2.5 万分の 1 地図： 穂高岳

コースタイム（天候：天気図記号）

**10/20 晴れ時々曇り**
- 19:30 本社 N1 駐車場発
- 20:30 長島邸前着
- 23:30 沢渡村営Ｐ着
- 25:00 就寝

**10/21 晴れ**
- 05:00 起床
- 05:45 村営Ｐ発 (ﾀｸｼｰ)
- 06:30 上高地ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙ発
- 07:15 明神館着 (小休止)
- 07:25 発
- 08:10 徳沢 (小休止)
- 08:20 発
- 09:15 横尾山荘(小休止)
- 09:35 発
- 10:35 本谷橋(小休止)
- 10:50 発
- 11:45 涸沢手前着
- 11:55 発
- 12:45 涸沢テン場着
- 13:30 頃～懇親会と夕食
- 19:45 就寝

**10/21 晴れ**
- 04:00 起床
- 05:55 テン場発
- 07:30 ｻﾞｲﾃﾝｸﾞﾗｰﾄ取付
- 08:22 穂高山荘着 (小休止)
- 08:40 発
- 09:30 奥穂高岳頂上着
- 09:55 発
- 11:25 紀美子平着(小休止)
- 11:35 発
- 12:10 前穂高岳頂上(大休止)
- 12:35 発
- 13:05 紀美子平着(小休止)
- 13:18 発
- 14:25 2000m 付近(小休止)
- 14:40 発
- 15:35 岳沢小屋過ぎ
- 15:45 発
- 17:00 上高地ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙ着
- 17:30 村営Ｐ着 (ﾀｸｼｰ)
- 17:45 上高地ﾎﾃﾙ♨着
- 19:00 発
- 23:00 本社部室前 (解散)

〈山行報告〉週末の天気予報はまずまずの晴れ間があるようで、胸ときめかせ刈谷を出発。長島邸を経由し、いざ沢渡へ。一滴のｱﾙｺｰﾙも取らず私(運転席)の隣でﾅﾋﾞして下さる金子さんと共にようやく沢渡村営Ｐ着。Ｐではそそくさと今夜の寝場所を決定。降り注ぐ無数の星空の下で時折、近くを通り過ぎるﾄﾗｯｸの音を子守唄に一夜を明かす。翌 21 日 5 時起床。空はまだ薄暗かったが想いが通じ晴れそうだ。ﾃﾝﾄの撤収も手際よく、上高地へ向けてﾀｸｼｰで出発。車中で、今年の紅葉は 5 日～1w 遅く今が見頃の模様(内心、ﾗｯｷｰと呟く)を聴く。その後、ｽﾄｯｸを車中に取り残すﾊﾌﾟﾆﾝｸﾞあったが、間もなく解決し、長島さんをﾄｯﾌﾟにﾊﾞｽＴから歩き出す。至るところでｱﾏﾁｭｱ・ｶﾒﾗﾏﾝがいる景勝地、正面にそそり立つ明神岳が紅葉真っ盛りで錦を羽織って出迎えてくれた。まだ見ぬ涸沢ｶｰﾙの紅葉が待ちどおしい。横尾大橋を過ぎ、緩やかな登りと共に屏風岩の東壁を巻くように歩みを進めると本谷橋手前で北穂高の頂が顔を覗かせる。北穂に立寄る計画ではないが、なぜか武者震いを覚えるのは私だけだろうか。本谷橋を過ぎて本格的な急登が始まるが、色鮮やかに染まるﾅﾅｶﾏﾄﾞに引き込まれるように長島さんが軽快。特に奥穂高を正面に見る辺りからの紅葉は一段と鮮やかでこの秋一番の印象。皆、ｶﾒﾗ小僧と化してしまう。涸沢直前で私がﾊﾞﾃた為、水の便も考慮し涸沢ﾃﾝ場を幕営地に決定。ﾃﾝﾄ数は 15 張ほどと少なく意外なほど。ﾃﾝ場で味わうぜんざいが最高だ。奥穂・前穂登頂を成し遂げたお姉さんの興奮が印象的だった。

翌 22 日 4 時起床。身支度・朝食を済ませ、ﾃﾝﾄを撤収。天候は今日も最高でﾓﾙｹﾞﾝﾛｰﾄの奥穂高岳、涸沢岳を横目に登りだす。間もなく急登が始まり、ｻﾞｲﾃﾝｸﾞﾗｰﾄに取り付く。やはり 3 千　級の山、酸素が薄い。五六のｺﾙにも登れる話を伺いながら、穂高岳山荘に到着。奥穂の北側は新雪がしまっており、金子さんﾄｯﾌﾟに気を引き締め歩みを進める。「慎重に行け」「鎖に全体重を預けるな」と金子さんの檄が飛ぶ。（別紙につづく）

〈ﾘｰﾀﾞｰ所見〉 今回の山行は 2W前に起きたｼﾞｬﾝﾀﾞﾙﾑ付近での悲惨な遭難事故を受け、紅葉山行とは言えｱｲｾﾞﾝ装備での山行となったが、気にしていた雪の影響も少なく念願だった盟主穂高の山々を満喫出来ました。最後に涸沢～奥穂高、前穂高経由のﾙｰﾄ設定には全体的に技術・体力面でも難しいｺｰｽ設定ではありましたが、藤田さん・金子さんの胸をお借りし、全員無事に下山することができました事、厚くお礼申し上げます。

涸沢カール下から望む奥穂高岳。人気少なく絶好の天気に恵まれた山行でした。

確認 (ﾘｰﾀﾞｰ) 吉川 06/10/24

作成 (報告者) 吉川 06/10/24

（続き）
下を見れば、人ひとりすり抜けそうな金網が目に入るが頼りなく、自分の足に自然と力が入ってしまう。
これが噂の梯子・鎖場かと思いながら、それぞれクリアしてゆくが、都度、藤田さん・金子さんの指示が飛ぶ。
そうかと思えば、岐阜県側の笠が岳が勇壮な姿を見せ、ひと時の安らぎを与えてくれる。
一歩一歩確かめながら歩みを進めると、正面にジャンダルム、背後の遠くにひと際とがった槍ヶ岳が現れ、ようやく奥穂高岳に到着。北穂高、槍、前穂高、西穂高、遠くに乗鞍や御嶽、かろうじて写る北岳、富士の山々を眺め 360 度のﾊﾟﾉﾗﾏを楽しんだ。
奥穂高から紀美子平までは緩やかな下りのトラバースの吊尾根を進むが部分的に新雪が残り、ここでも気が抜けない。「三点支持が鉄則だ」「ひざをつけるな」またもや金子さんの檄が飛ぶが、長島さんもよく堪えている。
数箇所の鎖場を越え紀美子平に到着し、ほっと一息を入れる。ここから前穂高の頂上までは空身で目指す。仲の良さそうなご夫婦と頂上で会う約束をし先に進む。頂上で遠くの山々を確かめ、先程のご夫婦と語らうなど、その後の長丁場をしばし忘れ、大休止を取った。西に忍び寄る雲行きを確認し、下山を急ぐ。時間は 12 時半過ぎ（ｺｰｽﾀｲﾑでは未だ４ｈの行程を残す。）藤田さんからは「明るいうちに戻れればいい」とは言われるも、気分は焦る。重太郎新道を進むも、なかなか岳沢に出ず、岳沢直前の長梯子が行く手を阻む。次第に皆のひざや足裏に疲労の色が出だしてきた。それでもスピードを緩める訳には行かず、ﾄｯﾌﾟの金子さんが全体をｸﾞｲｸﾞｲ引っ張り、辛うじて薄暗くなる前に上高地自然散策路に出くわす。スピードを緩め、皆の顔に安堵の表情。河童橋にて記念撮影の後、11 時間の歩行を振り返り固い握手を交わす。この後、タクシーで駐車場まで戻り、上高地ホテルでの温泉の後、帰途につくや、雨の雫が落ちはじめ、皆の想いが天に通じたかのようであった。（以上、吉川記）

無事下山を記念して河童橋にて

空身で登った前穂高岳山頂にて

穂高岳山荘過ぎの急登にて(奥穂北側斜面の積雪)